古今和歌六帖 三

830
181

国立国会図書館　タイトル『古今和歌六帖 6巻』 請求記号 830-181

ガラス使用

古今和哥六帖　第三

国立国会図書館　タイトル『古今和歌六帖 6巻』 請求記号 830-181

ガラス使用

帝國圖書館藏

古今和歌六帖第三

水　ヽ

た　た島　はし　かは
みは　う　かめ　いけ
みを　ふね　ゐせき　すまれ
あゐ　はせ　かも　せき門
たき　は　ぬなは　しつみえ
瀬川　あしろ　やな　江
いせ　ぬま　ちまき　すまひ
めくらつゝ　うかひ　はちす　あたら
せ　うみ　はま　すくなみ

大正
12. 4. 25
購求

国立国会図書館　タイトル『古今和歌六帖 6巻』 請求記号 830-181
ガラス使用

志か　摂ゝまに　弟ね　津を
いつわ　あらん　なみそ　堂ひ
見んるかん　こえゆら　うら　かれ
なほ　志ま　も海　千鳥
濱田ゆに　ふ縁　いつに　なかる
三笠ゆく　かな　みかきを　旦由に

万十一
古六一　読人不知
後拾四　源善朝臣
未考
同
同
未考
家
古春上

森

（於古一 読人不知）足曳の山下風ハ吹ねとも君なき宵ハかねて寒しも（こひしくこゝろくも 万）（へしけ）
源よしあそん
足曳乃山下水乃木隠て瀧津心をせきそかねつる
あしひきの山下水の下にのみなかれてこひむる心
おとにのみ山下水と成ぬへし人めつゝみて
志らなみのくる山彦の足曳の山下水の常に流て（志つく イ）
（読後撰三 読人不知）夏山の峯の下隠れ流絶ぬ心ある物としらすや
ふみつゝ行は流る心をさへも人をおもひなん
（家集云 亭子のみかとにて瀧の流に花のえんとさせ給ひまかりて池に花のちるをみて）
いせ
年毎になかるゝ川ハ花なれは散て流るゝ神やなかれん

伊勢集ニ入
後撰一作者不知

末考

伊勢集

家

家第二帖山已出
古雅集

万十四

万八

いはそ山岩ほの下ゆくたきつせのしらぬ人をもあかすみそてつかな（下かくれ行水の言）（伊勢）（まよふへきかな）（作）

沼乃波深くしてふかき心をすみなれてあかすもゝとる（伊勢集に　浅つせをこそやすくわたれとかへしくれかりに）（作）

音なしの山の下ゆく水乃あさきにはいたつらに心あり（今昔　後撰作者不知）（かへりこ　今音なし）

おく山の木の葉の隠にしたふかき水のあはれはしらせたまはてそ（てひ）（わすらるれと万）

貫之

松かけの岩ゐの清水むすひあけて夏なき年とおもひけるかな（拾かく）（あつまの下日）（すゞしかる）（まへそ　きゝる官）

そせい

君か代はあまの坂山の岩清水の末絶すそ水の流れよりいてたる（たかひろふるしも古）（官）

はしたかの岩間の花の名の鳥ゆくて松ゐなる人も水のしとぞ（もしたゆ万）（かたおきてたとへ作）

水鳥

鴨乃女郎

水とりの鴨の羽色のかすかの山のおほつかなくもおもほゆるかも（まつ官）（つゝ）

同
第二帖山已出

同十一

同四

後撰四
読人不知

末考

同

同

末考

後撰冬
読人不知
第一帖霜月已出

紅葉ゝふらる頃はもゝちの水鳥の青羽の山の色つきにけり（秋の露はうつしなりけり万）（まて官）

妹かてをいはねの鴨もふる水鳥の羽ふきしもの妹かすかたの（かもとりのあをはの万）（と万）（さしもわたる八万）

水鳥のうかふの池の木の葉落てうけるこゝろわか思はなくに（み万）（大舎人のこい　の官）（うくるこゝろ万）

そしめ

水鳥のちらる頃あとよりへてかりのへかのこゑそ聞ゆる（うつ官）

水どりのをちのかうはるてかへりきせかやこゑはまさらん（かとひる本）（こゑなけく本）

風吹はよるよる水鳥のうきねのとやかれ流ん

人とものとはゝ遠ひの鳥の鴨のうきねをしたにけるも（みれ）（あへさつたき官）

よし

羽のうへのしもはらふ人もなきをしの独りねけさそ悲しき（をとゑみて　六官月）

冬の夜はいけにてかけしかりの人も鴨のうはけにさやかなるらん（拾今作人不知）（おきさむえ　拾後）

古今三読人不知
池にすむ名を鴛鳥の水をあさみかくるとすれとあらはれにけり

未考
をし鳥は川へよるかはらよしもけのこてさへ惜るらん

門
君か名も我名もいそのうへにはれのおもてよこそすまれ

門
白妙の浪のうらにて鴛鴦の下の毛のみは人やしるらん

よしもち

元真集
霜おかぬ袖たにさゆる冬の夜は池に鴛鴦又てそはくゆのうへ毛

貫之

家
しのみつきといつゝきをつなきの池のまなかに鴛鴦のはの庭のそとよ

はるゆき

鴨

家不載 新拾集
もろともにまつはかきれる池に浪たてゝよるそうかはれは

つね

新拾集不載
白浪乃うちてさはけとすけなるへんまかせてもゆきかよふらん

新拾集
なにはえてこう沖乃かもめはすゝしき波乃音をききてあけぬらん

後冬読人不知 興風集
冬の池乃鴨の上毛におく霜乃きえて物思ふ比にもある哉

未考
袖ぬれてよるのかはへにみをすつる鴨の羽かひもみえぬ山ひと

門
難波江はのみまかすの鴨乃下ゐにこひて鳴とよ

古今一読人不知
あし鴨乃さはく入江の白波のしらすや人をかくこひんとは

万十二
あしへ行鴨の羽音の音のみにきゝつゝやこひんとみてや

はなくにおもほゆ

万三
吉野なるなつみの河乃川よとに鴨そ鳴なる山かけにして

大伴坂上郎女

門四
外にゐて恋つゝあらすは君か家乃池に住てふ鴨ならましを

土佐日記　未考　万十一　门　未考　万廿　未考　门

ほゆまき

いつかくるかせとおもふ（さゝ 土左）とちすともかぜめきくさだてゝみるらん

志まへ乃花よりも秋（し）ぬる鴨乃すむ海（ころあまと 土左）ならし

ゆきまちこかねつるみやわらん沖よす山鴨乃つねのやまとけ

はいは海乃みき比の池よ鴨そ人まつるともみなかとみねを（いとよあらう 宮）

（拾遺冬　読人不知）

鴛

みつとりはしたやすからぬ心にはあたりの水もこほらさりける（なかれ 拾イ）

（千々冬の於）

霜乃上にさよふけゆけは鴛乃羽風に独ある人のいをねかねつる（鳰 入　夫木廿七）

（新和忌　読人不知）

みかもりのかはきみ河も絶ぬとも君にかはらしとつきあへい

鴛とみえたるしかよりもしるかもしきれは（涼宮）

君もたてゝ池にすむ鴛とはみゆる代下にかくらく

门　後春 宮道高風　万四　未考　万十九　门　门　未考　门

あらそひゐるおきのみなかに鴛鳥のうきねのはてゝねられこそせね（袖中抄引）

みかくれ乃したの池のみくもの君かこひしわすれゐ（後上二卯女官）

春乃池の玉もにあそふにほ鳥のあしのいとなき恋もするかな

独ゐてみきはのかもゝ心ある鴛乃庭ともなれる

う　　　やちとり

ちりてふおほ井川いはなみかゝりつゝてかそふる

白河乃たえぬ君の心そうかひをいはね心するらん

うかひ乃ほとりのなかのしたふえ跡もかはらぬ

かめ

古河乃底のみくつによるとまてかめれにみえをてうる

（甲の仮名は加布也　和名に爪甲を倍よ）

（後古新中　大井川そこもかはらぬかめのうへにいく代つもらん　中務）

大井川ゐせきによるかめ山乃命のかきりなかれてそゆく（君とあいや）

貫之集

須磨のあまのせくるかあいは絶とも紙にかきとめて人をみゝなり
いはを

未木廿巴雑六かわに流よる人なくあれそに立田の川の紅葉すむかめのこゝろはきえなんみまし

未考

河内にかゝのみすまの奥ゆかしまことをつまに逢はて延まれ銘か
同

いせの海に釣する延まの莫にかゝるらけしと世のまに逢なもしくるかな
られ

萬葉集　我こひはいそをるきみのなみわかりけてひかれてやこゝろのなし
古今集　人をゆくみ池の底のなかれやとひきてはつみそめつるいはれなく

同

ゆきの下なるこゝろをみしかはあれはもと浦山へそめ
ひと

同

淀河乃底にすまねとあはれと思ひてはゝくゝに絵をこそ
ある
全葉集第十一　今はゝ行まてぬいとそなへきかそへにきくのはなとかほり

きよやとの大君
はゝまし

万四

奥へ行へはゆき今や妹かあなかるとゝいふるすめ津なかれ
もとかいとはなれ

未考

人よ逢てしとれの下にはかりてもあはてやまんことのゆゑ
すまき

未考

ろくきはるけぬの海に海士のさもりて世をまよ
もくも未木かセ

万十一

すきまなる延士のもくゆの食ゑふかみ成人ゆへしみのけし

同三

あはての山のさしのの浦はすまくの海士かるかんなゝ弦の紙に
さきし

未考

あはとみる千鳥のなくしはこかきまさる人をしらん
あす
未木廿セイ　世かのかけ

同

あゆ

同

君か世にかゝるこそ玉河のそのみきをかはやなかりにて
こそれイ

同

あかしをはいまたもそのことはかる人の鮎かるゝとよたかのよぬれて
大和物語　かの川のせゝにそかめのいそとりてわれこそわかうたよろしてや
万葉忠文第十七
よれる

公忠集

宇治河のせてみあつてよあろ木によるひ乃いろも信さて
秋第三　わかれてかけしとは川のあろわるわくのむかしをいつるらく
なのみゆくもの乃文字あかけまいは何代に経る奥のよくるかな

未考
ひくるゝをかすみにこめて宇治川乃あしろまもるはなつかしみせよ

川

門
乃ろよみも大河のへのゆれはのふかき心に波の立らん

万九
河のせの流もあへす立波の人にもいはて恋わたるかな

門七
みなれてはいまつあすかる早河のせゝもへたてぬ人はいつくや

門三
あまのまきあれとも川のよとみなは人をさためぬ心なくなる
さらしかね

家
ゆくみつの淀川の岸をかけにしてよとむともなきみなそこの波

万七
古今四注中に在人
絶すゆくあすかの河のよとみなは心あるとや人のおもはむ

伊勢集
わたらへの吉野の川のよとまねはたえぬおもひをせきもとゝめす

頼基集
照月乃かつらの河し清けれは上下旗のかけもみえける

未考
はつせ川ふる河のへにふたもとある杉としをへてまたもあひみむ

未考
今よりはつきて見えける河のせをいかゝしつめん心なくして

万七
かはつなく井手の川せのかけみれはみなそこきよく花そちりける

未考
鵜かひ舟いくせの川のたえまなき人のつらさも思ひしるかな

万七
妹か門出入乃川乃せをはやみわかむまつまつく家おもふらしも

未考
こよ川の底をみすしてうはに澄てありけるをしらすさねて悔しく

門
むこ川乃瀬々のやからにかゝるあみのわれはいつしか清くなるらん

未考
みつ河乃せゝにすむてふかはつこそ人の気色をしらすなくなれ

門
玉河をはさしもさはらて渡まし波のたちそふ身をいかにせん

古今四 読人不知
淀河乃よとむと人はみるらめとなかれてふかき心あるものを

未考
延喜二十二年 京戸公堀川
堀河乃すまへる水のにこりなくさやけき人にならひてそゆく

此人以上三條 大系 人以下七人以上 五年未往三寸 続日本紀第十三云天長十年十月丁亥朔甲寅太政官符令課左右京戸令輸檜柱一万五千株以東西堀河杭料

万十九　あさとこにきけははるけしいみつ河あさこきしつゝうたふ舟人

未考　みなせ河ふかきねいともかはせはさやけきはよるもとまる

万七　新ひとを嫌ひてまちそゆきかふかへる川まなかにかてうん百代まてに

後恋三 陽成院御製　つくはねのみねよりおつるみなの川こひそつもりて渕となりぬる

家不載 後恋下　たえゆかま

未考　ほのかにも見えまふけゆく桜川浪の花こそさきまさりけらし

同　君かたそ人をまつやは紀のおほむ音無川の音にのみきく

同　人とはぬ道とぬ道に神のかはなるあふくま川のなかれやらん

万九　身にしらぬなをそよにみちのおほきの川とこそや渡らん

未考　いにしへにわかれし人のありそふる吉野の川はされとあらぬ

　　君か世はいくよかみへん白川のせてふるつもる瀧の白らむ

同　陸奥にありといふなる玉河のたまさかにてもあひみてしかな

同　ちはやふる神なひ河原をみる時はやまとことくおもほゆるかな

同　はやくよりたのみし川のたえたれはいかにのよそのをやるさきせむ

万六　ゆふまくれみけて人をたのみしは淵は瀬になりにけりそ

未考　みよしのゝあきつの川の万代にたゆる時なく又かへりみん

万九　百敷の大宮ちかきみと川なかれて君をまつ渡るかな

未考　見まほりきしくもしるく吉野川音のさやけさみるにともしく

古恋五　おほゐそて月をとゝめてゆく川そこのよ渕のかはとけ

未考　よそにのみきかましものを音羽川わたるとはなしにみなれそめけん

同　かはりても別るゝことはいかゝせや川せにまよふ鳥の乱て

　　たちもあへて別れしあれつ川のまちえぬ心よわせつゝ

国立国会図書館　タイトル『古今和歌六帖 6巻』 請求記号 830-181

ガラス使用

未考　同　未考　同　万七　同十五　同九　未考

夫木大和（え）
めなし河かへてなかしに見えねともわかこふる人を恨みつゝ

古今 耳成の山のくちなしえてしかな思ひの色の下染にせん
あらそふも何か[illegible]見せん世の川や[illegible]よるふんと思ふへ

新勅撰 恋 読人不知
世中は[illegible]やまなるみなせ河ありて行水なくはこそ[illegible]

行水の瀬を渡るとも川[illegible]世をなすへきあやしき

新古今 恋一 読人不知
世中に[illegible]なけれそあとなき川のあなたあかる

みなせ河ありて行水なくはこそつひに我身をたえぬと思はめ

新千載 恋二 読人不知
かは人は[illegible]よはふ河の[illegible]さ[illegible]

同
はる[illegible]海を[illegible]河さえん[illegible]

続後撰 恋一 読人不知
いつ河の[illegible]ちらさまたせ[illegible]

いなせ河ちらてむかしの[illegible]あかれて[illegible]

名所名寄 六帖 つくま川[illegible]ひとりしてこそとあれ[illegible]
もろ河音にきゝてやよ[illegible]

同　万　同　未考　同　同　同　未考　同　同

いなむしろ川 名所名寄出一
やさしくもいひなしてん上句
景行紀曰襲石室土蜘蛛而破于稲葉川上悉殺[illegible]

いなむしろ河いなせとはなたてよみてまつ[illegible]

未 忘川 甲斐
忘れ川よくみちなしときけといとなき恋は[illegible]

続古今 恋二 読人不知
ひろせ川袖つくはかり浅きをや心ふかめて我思ふらん

とふ人も音なき川のはやきせを[illegible]

よ[illegible]河[illegible]

わすれても[illegible]思ふ[illegible]

官本 これと袖ひつ川のうつ[illegible]

あくれとも[illegible]

新後拾遺 恋 読人不知
大井川いかたのいそのみなれてそ[illegible]

夫木 八[illegible]
岩間よりいつ[illegible]川の[illegible]音[illegible]

近江伊香郡伊波太岐神社
うちはへて[illegible]川の[illegible]

忠見集
いさら川[illegible]の下[illegible]

紀ト ノ 又 なり

末考

門

門

万十

末考

後撰四 読人不知

末考

万十

門

秋風乃吹[illegible]乃錦[illegible]

やませ川[illegible]

[illegible]

[illegible]

かはつ

三吉野乃岩もとさらす鳴蝦うへも鳴けり川のさやけさ

[illegible]山田乃沢田乃蝦[illegible]帰る[illegible]

[illegible]蝦なく[illegible]

山ふき[illegible]沢[illegible]蝦乃鳴[illegible]

せをはやみおちたきつらん白波よ蝦鳴なり朝夕ことよ

草の枕旅[illegible]夕かたまけて鳴かはつかも

末考

万十

末考

万十

神楽歌朝倉 或説末考

万十二

門廿下楓云出

末考

[illegible]帰る蝦[illegible]

秋風よ蝦つまよふ夕されハ衣手さむし[illegible]

[illegible]帰る[illegible]

[illegible]

[illegible]帰る[illegible]

はし

かつらきや渡[illegible]橋[illegible]

[illegible]橋[illegible]

[illegible]

[illegible]橋[illegible]

はしの[illegible]橋[illegible]

淮南子曰若行独梁不為無人不競其容

同

後雜一 七条后
伊勢集 同后

伊勢集
古雜体 伊勢

貫之集

貫之集 上欠

万七

同四

同十一

後雜一 伊勢
伊勢集

津の國のなから[illegible]の橋[illegible] 伊勢 宣

人わたす[illegible]なからの橋と身のなりぬらん

難波なるなからの橋もつくるなり今は我身を何にたとへん

以上二首 いせ

[illegible]

[illegible]

以上二首 貫之

世の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万六
上總[illegible]

万十一
第五句[illegible]

第五句[illegible]

以上四首 並未考

万十一

江

[illegible]

[illegible]

井せき

大ゐ川井せきを越て行水の[illegible]

[illegible]川せき[illegible]

[illegible]

大ゐ川[illegible]

[illegible]

[illegible]

万十一
わきもこにわかこふらくは水ならは柵こえてゆくへくもかな
（いて官）（ゆくへくそおもふ万）

万
玉もかるゐての柵うすみかも恋のよとめる我心かも

万七
飛鳥川せゝにたまもはなひかせと柵あれはなひきあはなくに
（おひされと万）（万え）
はしゆきゝ
わくと

家
涙河ちるみなかみ早けれはせきそかねつる袖のしからみ
（おつる）（いつる官）（いつるけ）（かさぬ官）

万
秋萩乃花乃なかるゝ川とみえつゝかくる藤乃しからみ
ともとも
（のせて 夫木十一）

未考
大井川心しからみかけしよりもかくしもとめて淀まさりける
（かへの 夫木十七）

万
人しれすなけくなみたやせきかねてまなくもかゝる袖のしからみ
（万七わすれ川せくらむかたもなきものをわかこゝろのみよとむやと見る）

古秋下 春みち列樹
山河に風乃かけたる柵はなかれもあへぬ紅葉なりけり
（家集そのもの詞書ありて、のそいて見よ）

家 後雑旅
水のおもにしつくはなのいろさやかにも君かみかけのおもほゆるかな
いせ
（八後官）（いしらぬくの家）（の後官）（みなあかしろゝ後）

古哀 忠岑
忠岑集
瀬をせけは淵となりても淀みけり別をとむる柵そなき
（官 わかれをとむる 六二十七）

秋河
貫之

貫之集下哉 古恋一読人不知
かはかせのすゝしくもあるかうちよするなみとゝもにや秋はたつらん

貫之集 後雑三
大井川うかへる舟のかゝり火におくらの山も名のみなりけり
（へる後）（とも後）

家
流ゆきて

古恋一読人不知
なかれてはいもせの山のなかにおつるよしのゝ川のよしや世の中
（とそふ）

貫之集
かゝみなす水の鏡にうつしてもかはらぬ君かおもかけそする
（玉文貫之）（え官）（まるりれ人）（こゝろのけ）（おりひのけ）（そこへかゝりしくみ玉）（もき）

未考
様川よるかたもなきわか袖は舞ひるかたのみを人こそしらね
人まろ
赤人

百三　人丸

新古雜中 人丸
武士乃やそ宇治川乃あしろきにいさよふ波乃ゆくゑしらすも

みつね

新拾冬 躬恒
河よさは河面のこゝろ河しらなみもにこりてぞ落葉ありける

貫之 六イ

同

貫之集

新拾冬 貫之
落つもる紅葉をみれは百年乃網代のもとにあるらん冬の
ほまさき

六ゝつゝゆき

同

紅葉のみなかれてとまるあしろには白波もまたよらぬ
白そら絶

三吉野乃よしの河乃あしろには瀧のみなわそおちつもりける

貫之

家々載
後雜二 大江興俊

宇治河乃なみのかよひて君をわきさか瀬によるあり

未考

ますら河みなの乃あなく音をそなく網代かるてのぬのつきまゐ

貫之集

やな

拾雜春 貫之
やね山河風寒く吹けれは渡乃絶え人行ちまさりける

あさん此やまうち渡して女けれや心は深くそふかあらむ

万十一

江

入江にくいさそ取るにも海漕ぎかねる人みなともかゆる吹

古今四 読人不知

新古今 小町
ある河渡りいる江乃小松人みなかいくせらつとにもとの乃瀬

未考

いけみしの乃むは遠くゐ江ほとく舟乃音やわたしたも君行る

貫之

小町集

はるのよもけしへゆかたてしたうかみくるの瀬のすみくら

貫之集ゝ載

ひろ道てい後てもゝのかゆえ此てうとまさるある

躬恒集

ふりもあるてす都春に乃江岸よかるまめありて御作

未考

手かうれろこそハくろしき　信明集

未考

未考

後恋四　伊勢
伊勢集 下清出

未考
古六帖 荒 古出

家
古今 反風出

未考
古六帖 池 古出

後恋六 涙[illegible]ハ[illegible]の[illegible]えてこそ[illegible]

みなかに八浅きを[illegible]河まよふえてこそ人は[illegible]つゝあれ

後撰恋二 読人不知

いせ乃海にとしのみるとも江乃浦て[illegible]人の心と

延喜式神祇 大神宮 内親王 祭 五月十月 [illegible] 八月 [illegible] 尾野湊 [illegible]

あくかれて心の[illegible]は[illegible]江乃[illegible]とはふ[illegible]とやみちん

す乃[illegible]れめ[illegible]か花ハ岸よりこえて波のかけさもよるまて[illegible]

伊勢物語

いせ

（池風のちくのこし いさみのこゝろ[illegible]んにとちぬ波ハ見えつゝ）

我せこか神[illegible]さきこの池乃むもみとも[illegible]かわめをとやきん

貫之

於雅上

雨ふると吹松風はきこゆれと池乃汀はまさらさりけり

[illegible]る[illegible]乃池は[illegible]もきかへ[illegible]と[illegible]

[illegible]の[illegible]池のと[illegible]の[illegible]そ[illegible]

いのちとて[illegible]池の[illegible]もゆ[illegible]

あさなけに君[illegible]八いつくれ乃池にもれん人ねぬなき[illegible]

こゝにも人の[illegible]乃池に[illegible]

かけもる乃[illegible]てふ[illegible]

ちよへ池よ[illegible]むも乃かけに[illegible]

あふ事をなに[illegible]池乃[illegible]

[illegible]心[illegible]池乃[illegible]みなとふの[illegible]そ波[illegible]

[illegible]る乃[illegible]まて心乃[illegible]家[illegible]乃池[illegible]

なかなかに[illegible]池[illegible]

日本霊異記云 諾楽京越田池南蓼原里

おもしろくも[illegible]の池[illegible]

あしか[illegible]池[illegible]

あかひ人

以上十首 並未考

後恋四 読人不知

百十一

万三　玉雑三 赤人
いにしへのふるき堤はとしふかみ池のなきさにみくさおひにけり　き万

ぬなは

万十一　於恋一 人丸　わると万
おく山乃石垣沼乃みこもりに恋やわたらんあふよしをなみ

未考
ぬ乃草よ生てたえもみえぬ沼の下乃心をしる人そなき　のえり

古今二恋 友則　友則集 古五十紅ミ出
紅乃色には出しかくれ沼乃下にかよひて恋はしぬとも

未考　古今集 月かねるわさゝの沼のみなかみをよそにとりけるよしそかなしき
いはれとて絶えんみちのくのあさかの沼を煙るとも　又官

冂　元吉集 あさまなるあさゝの沼の
かくれつる沼もとほりちかき濱眞乃いさかの沼乃紙いふとん　つ官　いうなさんよれ 官　さほそ 分枝なる

冂　不審 何ゆふのうくれ
かくれ沼乃下にわかれはいつそとも知られてあらん　万十一 こもりぬの 校かて ふける 校めのあいさらいくません こころね そめん

万十一
よくまぬの下にこふれはあきたらす人にかたりついむへきものを　あつらふくよ 官　まへイ　へき 万

うきくさ

万十二　於恋四 読人不知
葦根はふうきは上こそつれなけれ下はえならすおもふこゝろを

未考
たゆたふもいつまてかあらんうきくさのおふる葦乃ねのよをしみ

冂　古六あし　白浪のよするかたにはあひくあれのみのよの中はみかけけれ
葦根はふうきは上こそつれなけれ下はえならす思ふ紀

清しゆきゝ

以下七首家集　於雑春 家持
春くれは滝乃白糸いかなれやむすへとも猶あわに見ゆらん　え古　へ　とく古

源氏物語 いつけなきこゝろの一筋やわりなくあはれなる心ちして
まよひ入ぬるそさはりとこそあらかりなれ
江 こゝろ入ぬるそさはりとこそ ところ
万代十二 うきさはにわたるみのゝことく
かれていきてよのつらんちこそ
せよ 九条右大臣

つる紀糸新かしゆかしあさとみえて流る　白いと 官イ　うる古
へつてあるもあさ滝ちかれい緑つてあるともしらむ　みそ 信　上

流れもあちらん流れてもつきぬ物とやましてこのまに　さし新古　出古　ひか 官門　たね古
山よりて見語を分て流れくるきしにこそ落る絶えし

春くらて月や花ならめ水を滝乃白たゆむ心ちかなる　花官
白浪やみるとはみえつゝ消るはおちくる滝乃常なりけり　のり　いそのかみ 官門

家集不載
山分ておちくる滝を白雲のたえぬとのみやなかめける　ける ネイ 官

万三　万十一　未考　萬十二恋 古恋三 友則 友則集 寛平后宮歌合出　未考　ロ　ロ　万十一

玉雑三 赤人
いにしへのふる記つゝみはとしふかみ池のなきさはみくさおひにけり

ぬま

拾恋一 人丸　わきもこ
おく山乃石垣沼乃みこもりに恋やわたらんあふよしをなみ

ゐまよせてくるもみえぬ沼の下乃心をしる人そなき

紅乃色にはいてしかくれ沼乃下にかよひて恋はしぬとも

いはとても紙なしみちのくのあさかの沼をいつとみる

かくれ沼乃あさともそこめちまく清真乃いけの沼乃紙にぬるとそ

かくれ沼乃下ゆく水乃いはねはいふをとろかねてあさん

よくまの下のみまいあはさ人にかくれさらすもの

うしま

菅緑にしよう記ともそはましかりつゝもとさらにあらぬ

以下七首家集　家集二載

たゆるもいはまにかよふあはれ六おもしろき芦乃かののあらし

芦れれ乃ちゝしはやいとはのれ乃つてはねてなる道

紀

流しゆき

まゝくたれん瀧乃白糸いくとせもたえぬや徒もれあらん

たきの糸はたえて久しくなりぬれと名こそなかれてなをきこえけれ

いとはやくてあまり瀧ちみ緑つてあとぬもふ白む

ふかくと瀧もゐちん涙てもつきと為物とやまくそのまん

もよりて結も分て浪まてるをましにくくて涙る紀ゆ

まふくりてゐやゐやさゐ水ゐ瀧乃とまむかちかゐる

白波やみるとみえ見る波のは都らくる瀧乃常ゆれくける

山分ておちくる瀧を白玉のみたるゝとみてちらし遣

以上八首　　貫之

家
百草の花乃影まてうつしつゝ音もかはらぬ白河乃たき　水 家
へんせう

後雑三
今[illegible]海の瀧つせの上へと[illegible]
いせ

家
[illegible]山[illegible]雲ゐ[illegible]落くる[illegible]ゆる瀧
[illegible]

古雑上
清瀧乃せゝ乃白糸くりためて山分衣おりてきましを
[illegible]

家
玉雑二 僧正遍昭
見[illegible]袖[illegible]瀧[illegible]

六帖
[illegible]落くる瀧乃[illegible]

貫之集
いくよへて[illegible]瀧つせ[illegible]
つらゆき

未考
[illegible]絶ておつる涙なる瀧乃[illegible]人[illegible]

古今三 読人不知
[illegible]

未考
[illegible]

万六
としことにかくも見てしかみよしの乃清きかうちのたきつ白浪

門
山高み白ゆふ花に落たきつ瀧の河内は見れとあかぬかも

古雑上 伊勢物語 六帖 業平
ぬきみたる人こそあるらし白玉のまなくもちるか袖のせはきに

未考
足曳乃山[illegible]音羽乃瀧は音の[illegible]

後雑一 大政大臣
白河乃瀧の白糸見まほしけれとみたりに人はよせしものをや

門 中務集 六載 中務
白河乃瀧乃いと[illegible]

後恋三

ことよそのみゆる

いはまよりおつるしら玉ひろひつゝあらん人なれはさほの瀧

清原深養父

门

宮井瀧乃山ハと名のみ聞てかへらかなる白浪のおちても

たゝみね

古雑上

風ふけと所もさらぬ白雲ハよを経ておつる瀧にそありける

みつね

门

落瀧津瀧のみなかみ年つもりおいにけらしなくろき筋なし

门　三條町

思ひせく心のうちの瀧なれやおつとハ見れと音のきこえぬ

みつね

未考

世の中におもひありきて瀧のせにおちてなかるゝ袖そかなしき

门

兼輔集　小町集　左近集

みなかみはさらにみえすやおちたきつ人の袖よりおつる涙か

みちのくのつゝしの瀧のしらいとはたえすそ人のおもひあらはす

たえすして雨のふるにもぬれてまさる人の袖かな

そせい

万七

うらかなし

家二

うきめみて瀧は世よりもまさりけれかなしかりけん袖

未考

うきめみてやらん人のあさましく思ひしけれはそめて袖

门　古老　思ひ…

うらみてもなれし人ハかはすよの中を誰うき袖とおもひけん

後拾一

ゐ中やあふとは見るの瀧のもとにてなれしそ

伊勢

家　後恋一

なかれ河瀧もて流るゝ白浪のうへにかへる人はあはてかへるや

澤

万十 家持集 後撰春上 よみ人しらず

古恋二 家

未考

古恋四 素性集

素性

同

同

万十一

同

君かため山田の沢にゑくつむとぬれにし袖はいまもかはかず

（ゆきけの水にものすそぬれぬ 万）（今も也 後）

貫之

海山とかはる淀の淵のあさましくなかれてとまるよしもなき新

（伊勢集 ほのかにも）（えまき集 あすか川）

なかれてはいもせの山の中におつるよしのゝ川のよしや世の中

ふち

そこひなき淵やはさはく山川のあさき瀬にこそあた波はたて

（そこひなき 古 素）（あさく 古）

とゝろきし淵もせになる世の中にいかてか人のことしもやいはん

いにしへの淵の藤なみしつえまてかけてそ人を思ひそめてし

ちはやふる神なひ山の淵のうちに心はかりはさきたつを

（まそかゝみ 万）

山さとにいまやはたえむ宇治川の岸のふちなるこゝろまて

（二葉 後撰）

神なひのいはせの淵のそこにとめはてしそらなきあやめ草かな

未考 家持 山川の出

未考

万四 家持集 二十四

万四

同九

たまさかる神の関なる山河の水のあさせをかはりぬるかな

伊勢

せ

よしの川いはなみたかくゆく水のはやくそ人を思ひそめてし

川のせのみなまたあかすなかれても人のうき世はたえぬなりけり

やまと

（新勅撰 雑四）

手にむすふ佐保の河せのかはらなる駒打わたしさはのかはかん

（きよき瀬と 万）

あすか川瀬となるよもありなむにしへのなかれてもあかす

清原元輔

たれかまたいはれぬれはとかけくれて

（新千 冬）

吉野川はやきせにはさゝれてもいたつらにのみ人にしられぬ

（みつ 万）

梶原の山のあさぬのかはくまのうきせのたえぬおもひなる覧

（のり 万）

ぬるとみやみなれもすへ

（をちこちのひとの 万）

未考

えつき川いくせわたると相そくれハやせう遠

门

名取河いくせかわたるなゝせゝもやそせもきてしるらん

门

あふさか門せ乃川あれよかれてもやを見いはあら社と

万十一

さくしまあふみ君ゆへいふらくは此門のせまむもあらしは

海

未考

いせの海の波間にあくる鶴他のうらえ人独ゐ流るらむ

秋忌五

にけるこて世のうき海となかめちまん物をし流ゐ涙やしけるらむ

あはれみ

家 後忌三

いせの海のこかつれそまん人まちよかのあかまてに

是則集

つきせぬうみのそ儀のあやにゆへ海てかつほ浪

女則集 古忌二 女則

かけみのそむ海の名まさん人のみるあなせまてけふる

家 後雑一

海とのみまとゐし比は沖つ波あらくのみこそ立まさりけれ

土左日記

さをさせとそこひもしらぬわたつ海のふかき心を君にみるかな

门

とはやみ心の海をかけれともかけはすきてもやかるらん

いせ

以上二首

貫之

家六家

いせの海の千尋の浜にひろふとも今は何てふかひかあるへき

未考

なにの里の人の沖をなかめてしも忘いかはこの海をまとふるやもしらて

门

子の此門流れてはふれのまの底にくしけれは

万三 下比忘とも

須广乃浦に塩やくあまの夕されは行るそてに山なるらん

门七

わたつ海よ鳥もあるへよ海原の八重の小波よそる白雲

清ゆき

家　浦ちかく咲ちる浪の花ゝ遠い海より[illegible]

末考　下潮[illegible]　万七　わたつ海乃奥にひろせし[illegible]てさそふ袖を

なこの海のあさけのなこりけふもかもいそのうらわにみたれてあらん

あま

万七　あさりする[illegible]

門　あひきするあまとや見らんあくの浦の清きありそを見にこし我を

末考　わたの海ハ浦しまも心やすく[illegible]

万七　いせ乃海の海士のしまつかあはひ玉とりて後もか恋のしけゝん

末考　浦ちかくいさりするあまの[illegible]

門　あまをとめいさり火の[illegible]

朝なきにあまの[illegible]

家　心してむすはれかまて袖ぬらす[illegible]あまの[illegible]けるいせ

なかのいきまろ（意吉或奥麿）

万三　おほみや乃うちまてきこゆあひきすとあことゝのふるあまのよひ聲

古雑上　貫之　貫之集　下河[illegible]　難波かたおふるたまもをかりそめの海士とそ我八なりぬへらなる（イ官　塩竈の浦こきいつる舟のね[illegible]　塩竈ノ所ニアリ）

万十一　なか〳〵に[illegible]の海の海士と[illegible]

まそくちなもし

万四　たくなはのなかき命をほしけくはたえすて人を見まくほりこそ（栲縄ト云ハ木ノ名白キ故ニ古ハ白キヲ[illegible]）

末考　いせ乃海のあまのつり縄うちはへて人をゆつらんと[illegible]

門　いせの海の[illegible]の心を（古今[illegible]平中集）

ちかひ

万三 上旬下再出 但第句須ア浦
同四 山口女王
莫方 伊物
古今四 読人不知
伊物 業平
六一帖 烟已出
万十一
未考
同
同
万十一 六帖恋二已出
未考
万七

古雑上 読人不知
同
同
同雑下
万三 上旬已出 但縄浦
未考 上旬已出
万六蔵
同
家

（すま）（古又下再出）なはの浦に塩やくかのか夕されは行すきかてにやまにたなひく（けふり万）（るて万）
（此歌のかしら須アの浦とかきてあの本にあり）

やまくちの女王

（新古今五）芦辺よりみちくる塩のいやましに思ふか君かわすれかねつる

（すま古）（官）いせのあまの塩やくけふり風をいたみおもはぬ方にたなひきにけり

うみとれの塩さあ[illegible]まさ高屋よあそてもあるらん（ひ官）（万）（てあるも官）

須アの浦まむしかり海士の衣ぬ[illegible]かけやち絶

難波かた塩ひにあさるあしたつも[illegible]みさ知て

あし屋のなたの塩やきいとまなみつけのをくしもささてきにけり（万七）

きみかこふるやまのはしより[illegible]に舟のりしけくさしてそ過へき

ちかのうらにゆふなみたちてわかをふね

あゆちかたしほひにけらしちかの浦に朝こくふねの沖によるみゆ（七万）

わたつみ乃奥津塩あひにうかふ泡の絶ぬ物からよるかたもなし（仲官）（きえ古）

おしてるや難波の浦に焼塩乃からくて我は老にけるかな（みつ古）（い）

ゆきひら

わくらはにとふ人あらは須アの浦にもしほたれつゝわふとこたへよ

須ア乃浦に塩やくかのか夕されは行すきかてにやまにたなひく（あま万）（けふり万）（かね万）

わかの海乃沖の塩をふかみちるまてもへんよる世のまてぬるを

しほかま

山くちの女王

（新古今五 山口女王）塩竈のまへにうきたる浮島のうきて思ひのある世なりけり

（続後撰恋三 山口女王）（新古続後撰共依此書被取之今体此住古之風並万葉之不載之不知此依何去取之）わかせこに心もあるくみちのくのちかの塩竈ちかつまかも

いせ

海士のかるもしほのまのかやかりてもしほつきせぬ（しまくま家）（それ官）

未考
みちのくの千賀の塩竈ちかなからはるけくのみもおもほゆるかな
後撰恋二 読人不知
からきは人にあはぬなりけり

古陸奥哥
我せこを都へやりて塩竈のまかきの島の松そ恋しき

同
みちのくはいつくはあれと塩竈の浦こく舟の綱手かなしも

伊勢集
塩竈の浦にあまはなけれとも舟の音はせてしつけくもなし

小舟

万四
大舟のおもひたのみし君かいなはわれはこひむなたゝにあふまて

古恋一 読人不知
いて我を人なとかめそ大舟のゆたのたゆたにものおもふころ

人まろ

万七 作者未詳
みなと風なき津に舟は風にしては舟をうかへて心あはせを

同十一
むまやちふ島かけにゝしていなみ妹か家のあたりにてかくれにし

同七
あまをふねほかもはれるとみるまてにともの浦わに浪たてりみゆ

後雑三 伊勢
なにはかたけふこそみつの浦ことにこれやこの世を海わたる舟

伊勢

万九
あともひて漕行舟は高島のあとの湊にはてにけんかも
万葉第九云高市歌一首 又云高市連黒人 私今為高市皇子御哥者非之

たかいちのみこ

同
照月を雲なかくしそ島かけに我舟はてんとまりしらすも
後拾旅 読人不知

ひとまろ

同 作者未詳
わたつ海のいつれの神をいのらはかゆくさもくさも舟ははやけん

同上
あら磯の塩あひにそひて行舟のほかにおきてやゆかん

はのまろ

同三
下野三
風ふけは奥津白浪かしこみと海乃鶴舟こきかへるみゆ
玉雑二 読人不知

同十
あさなきにこきいてゝ見れは沖つ舟あまの釣舟よするかもとかくれゆくらん

門七
近江の海浪かしこしと風まもり年はやへなん漕とはなしに

家 後恋三
ひかりさす舟に乗そめてひとへに浪のよるひるも白（?）なる
ゐなしのしらぬ人

万三 古大宗ぬる
ものゝふのやそうぢ川のあじろ木にいさよふ浪のゆくへしらずも
人まろ

家 古羇
ほのゝとあかしの浦の朝霧に島隠れ行舟をしそ思ふ

一沙弥満誓

万三蔵
ゑさ江の浦漕のつり舟をおきつ浦にそこきてよ

万十一
大船にあしかりつみしみゝにも妹は心にのりにけるかも

門三 沙弥満誓
世中を何にたとへん朝ぼらけ漕行舟のあとのしら浪

未考
白浪のおしてよする時はあそくゝ礒によらむと思ふらん
礒にはよらで浜藻を舟あまりつゝかけるらむ

万七
漕て行かんをみゆその際るゝとそてかへる海の釣舟
あまやふ

古秋下 興風
興風集 菅万下
白浪に秋の木葉のうかべるをあまのながせる舟かとぞみる

貫之

土佐日記
追風の吹ぬる時は行舟のかぢまもてこそうれしかりけれ
かりらん

古恋一
しら浪のあとなき方に行舟も風そたよりのしるべなりける

未考
憂世かりけりと舟よりもいそぎてこそ

門
思ふことありて延喜乃釣舟沖に出て浦見さすまゝによせらん

万十一
みさごゐるすにゐる舟の夕塩をまつらんよりは我こそまされ

同七
由良の[illegible]を過ぎ[illegible]楫の音[illegible]
[illegible]てし

古今一　読人しらず
いせの海の海士のつりなはうちはへてくるしとのみや思ひわたらん

[illegible]
伊勢の海に釣する[illegible]

万三　上丹巳出
風をいたみ奥津白浪たかゝらし蜑の釣舟浜にかへりぬ

未考
[illegible]あまの釣縄うちはへて[illegible]

万七
しかのあまの釣[illegible]
いでけり

万十一
大舟のたゆたふ海にいかりおろしいかにせばかも我恋やまん

同
近江の海奥こぐ舟のいかりおろし忍びて君がことまつ我ぞ

伊勢集
いせの海に[illegible]
あと
いせ

新勅撰一　読人しらず
[illegible]

万十一
住吉の津守のあまのうけのをのうかれかゆかん恋つゝあらずは

[illegible]
うきめのみ[illegible]

夫木三十三
仁和三年[illegible]歌合　陸奥
[illegible]

万十
[illegible]

同三
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『古今和歌六帖 6巻』 請求記号 830-181

ガラス使用

万十一
同七
古恋一　読人不知
未考
万三　上舟已出
未考
万七
万十一
同
伊勢集
万十一
未考
同
万十
同二

みさこゐるすにゐる舟の夕しほをまつらんよりはわれこそ増れ（め万）

浜きよみいそに我をれは見ん人はあまとかみらんつりもせなくに

つり

いせ乃海の海士乃つりなはうちはへてくるしとのみや思ひわたらん（くる古）

伊勢の海に釣する海士乃うけなれや心ひとつをさためかねつる（うけ官）（める）

風をいたみ奥津白浪高からし海士の釣ふね浜にかへりぬ

[illegible]あまの釣縄うちはへて[illegible]（いせのうらのイ）

志かのあまの釣舟のつなたへかてに心におもひて出てきにけり（うちすてゝ）（おもひて）

いかり

大舟のたゆたふ海にいかりおろしいかにせはかも我こひやまん

近江の海奥こく舟のいかりおろししのひて君か言まつわれそ（沖官）（い万）（かくして万）（そ万）

いせの海に[illegible]ておもひのふねにとまりやせん
あまと
いせ

[illegible]の海にいかりおろして[illegible]

住吉のはまのあま乃釣乃[illegible]

あまを舟の[illegible]

[illegible]

なみめそ

[illegible]

あかん

[illegible]

万七 作者未詳
濱乃まさこのうへなみよそにたちかへりなんとまつら我は

藻

拾雑上 読人不知
こゝの舟今そこきぬとゝまりしをいのちにかへていはまし物を

万十一
新千恋二 読人不知
淡路なるしかの浦乃かる藻はさそはれにけりよるへなきみの

末考
人あまた思ひのかるもにかゝりみえて今そかへるる

古雑下 読人不知
いくよしもあらしわか身をなそもかくあまのかるもにおもひみたるゝ

万三
新拾雑上 人丸
玉藻かるみぬめを過て夏草の野島か崎に庵すわれは

末考
万十七
志ら波のよせつるむくよのまにも君を見んとていはぬよはなし

いせ

後雑四
伊勢乃海にとしへてすみし海士なれとかゝるみるめはかつかさりしを

万十一
海乃そこ沖をふかめておふる藻のもとも今こそ恋はすへなき

末考
新勅恋一 読人不知
いさりせし沖津浪よりよる玉の裡ろし君
風をいたみ沖のむ藻のよるかたもしらぬ浦にそ何ゆゑか見ん

万二
ゆふはふる浪こそきよれ波のむたかよりかくよる玉藻なす
ゆもとみえとし

人まろ

万十一
拾恋一 人丸
みるめかる海士のゆきゝのみなとちになこその関も我はすへなくに

万七
たきつせのいはまのうきも浦かせのこの海の霧をもむすひけるかな

万
荒磯こす浪をかしこみ淡路嶋みえすやすきしこの海のむもかくやかねつ

万
今のまもわすれかたてにしら波のやへたつ浪の舟てんかきん

万
雨ふれるかめからつくる浦のまゆのほとふむもしらん
かんくるめ

具風集
古今三 読人不知
後新三 読人不知
古今三
未考
後撰十 伊勢 伊勢集
古今四 読人不知
未考

白浪をわけあまのつく舟も今ゆみえるあかりかな
大かたハわか名もみなと漕出なんよをうみへたに奥まてうき進
そせい
たま津島見れともあかすいかにしてつゝみもてゆかん見ぬ人のため
つらゆき
三つ塩のなかれひるまをあひかたみみるめの浦によるをこそまて
わたつ海の底のあきてるみるあなたは漕てそ越ゆかる
松か浦を此あまやいかはくいせの海乃浦によする
いせ乃海の朝なゆふなにかつくてふみるめに人をあくよしもかな
白浪ハ立さはくともこりすまの浦のみるめハからんとそおもふ
白浪の行かへてくるんハあまのかるそてよあつゝきるる

古今五 読人不知
未考
古今五 典侍直子
未考
未考
门

うきめのみおひてなかるゝ浦なれハかりにのみこそあまハよるらめ
こまち
奥津浪うちよするもにいほりして行ゑさためぬわれハあまなれ
君を猶うらみつるかなあまのかる藻に住虫の名をわすれて
内侍のすけなをいこ
あまのかる藻に住虫のわれからとねをこそなかめ世をハ
うらみし
こゝろ此浦よりあかあかたと祈ゝて沖にく舟のとこてよもする
君なくて芦かりけりと思ふにハいとゝ難波の浦そ住うき
みくまのゝ浦の松原見えくれて秋をひろふやかはえぬるらん
風ふけハ生田の浦にいく寄るあらし心を知らぬそし

家 古恋上 上よみ人已出
未考
万九
伊勢集
家 後雑一
万七
未考

貫之
いせの海につりするあまのうけなれや心ひとつをさためかねつる
あまとてもよにいくるしわうと浪のくしみやとまかれくさ
小辨
高しまのあとのみなとをこき過て塩津すか浦今かこくらん
まて見ましかてろうもふみる貝のいろのもましなれ
小町
あまのすむ浦こく舟のかちをなみ世をうみわたる我そかなしき
いまはのたゆらを絶ぬあまつれしかと海にあまりやみえん
須磨のあまの浦こく舟の跡もなくみぬ人恋る我やなになり
いそて新なくみやゆかてしは浦なるこの浦見えつてくる

家
未考
後恋二 興風 興風集 他本
兼輔集 一本 古羇
万三 長田王
万一 人丸集
万九

伊勢
みくまのの浦よりをちにこく舟の我をはよそにへたてつるかな
こらしか浪あまのくたもまちまちのみなれぬ
新恋をとろ人あらん田子の浦にみかへの浪のかよひつくらへる
中納言かねすけ
夕月夜おほつかなきを玉匣ふたみの浦はあけてこそみめ
あしきたの野坂の浦ゆ舟出して水しまにゆかん波たつなゆめ
人まろ
あみの浦に舟のりすらんをとめらか玉ものすそにしほみつらんか
紀のくにのみつ嫁にあまともたゆの浦に花かつみ枕のまゆ
見ゆ

續後撰恋五読人不知
伊勢乃海にあまのとるてふ忘貝ましとしれは恋まは（さと）
忘人らん

土佐日記
よするなみうちもよせなん我恋る人忘貝おりてひろはん
さかの上のいらつめ

万六
拾雑恋 坂上郎女
わかせこに恋れはくるしいとまあらはひろひてゆかん恋忘貝

未考
いせ乃海此渚にもしろゝつ忘貝拾ふすきのこにもしはなくて
人まろ

家集 万七似者未詳
新勅撰雑四読人不知
いとまあらはひろひにゆかん住吉の岸によるてふ恋忘貝
みつね

家々
あめそて海のそこめくらんを貝かひなき忘れ貝人のひろへる

万十一
住吉の濱によるてふうつせ貝みなき事もて我恋めやも

门
新拾恋四読人不知
紀乃國のあくら乃濱の忘貝我は忘れしとしはふるとも
たゝみね

未考
白浪のたちよるこゝろかなしきは我もいたつらなきせんことをと
古あつまのあきさきさつしくれ涙あれはちらてのそこにうつる元方

门
紀乃みやわか名をとりて猶波につらかれ波の恋心

门
河のせに此浜に身をかへて通ひ神も波はあさき

し渡

万十二
若の浦のあさの浜乃忘貝なにとかいへは忘れやしなん
山背万
おほえのあさつな

後雑一
まとゐせしもおもはぬにあさ恋しきは通ひしよる白浪のかへる

未考
ゆくさきを割てとへとかへる浦の舟の綱にこそ

古雑上 読人不知
なにはかたしほみちくらしあま衣たみのゝ嶋にたつ鳴渡る

後之三

未考

古雜上 読人不知

万七

未考

家 古雜上 第一帖四已出

続古今一 読人不知

まとつゝもやせる我谷浪に燈のをとしも今そしそしま

[illegible]

続古今四 読人不知

あはぢしまやそしまかけて今もさてに浦の初嶋

法イ

喜仙法師

濱奥まそくいゆる松嶋かまつかくせとも家の名

白浜の浪にもかれかへるまてあまや浦ん

新勅撰四 読人不知

ことに浜のかよふせる白浪の波まてゆふく浜千鳥

藤かけの真瀬(?)に妹嶋かとの浦まてきて夜

拾別 貫之

金あらとての浦のよにあかまけ八浦まねと

第二山 下つけやあさこの山のあさくらへと思いかき

となみの浦 大本

雨のふるたに鳴の由あやかくれぬ袖のおそこ

人家集

きてぞ 家

六帖 人もれそえひけるのうちとあるかあさの望をつれあさき

みかけ行とも

せきま

ひとりのみ秋の浜まよろる見るあかくまつ我ぬる也

きくのみ 大本

大木十五 家集 続古今 雜後

金あかしにあの浦のよまたをみよかせの袖まさ合

新古今一 読人不知

大木十七 家 但馬

但馬なる雪の白浜よるよる世にあとまつの佐人のやまん

よせくるなみ 第二

ひろふきに

大木十七冬二 家中に 読人不知 六帖 人丸

うちの浜のをとてのよや所へて浦のなるあらしまて家

人麿

拾雑 秋 人丸

のうきもとらぬ 万 第六帖

わかなくるるもと 第六帖

ひつちて 万

わかなもあなみ見てもあか人を浜のみまて家をて浜の

妹せこのあそかくて松崎のかそれかくて浜の

浜をもれぬおそきをもなかえいつもちの浜

浦ちの

さ万

住吉の松に白浪風吹きはすすれ浜の見ぬまるも

ひとめ

あか人

濱ちりのあとをみるかはとこにあるをそのに浜波

赤考　赤考　家 後恋四　赤考　同　百四

紀乃国の吹上の浜にてこそあまたのうき何ならん（ゑひりんイ）

浜千鳥（ナシ官）

（後撰冬 読人不知 江戸浜）ゆふされはさほのかはらのかは霧に友まとはせる千鳥なくなり

年ふれとかはらぬ浜千鳥あとをも道とも常にはなし（とも宮）

あさくて

（後撰雑 躬恒）白浪のよする浦の浜千鳥あとやみえぬとしらぬなる（しほたるゝ 後撰）

我恋はなきの浦の浜千鳥あとたえてもまたなき君をそ思

八千鳥浜の浦まに住千鳥君かみよをは八千代とそなく（しほの山 新古集）

友もすなとり千鳥きけはゆくへもしらぬかくはなるらん（宮本 ふるきあとの千鳥のこゑとふやまは なかりけりゆくへも浜人まちて）

たまゆふ

（拾恋一 人丸）みくまのゝ浦の浜ゆふもゝへなる心はおもへとたゝにあはぬかも

人まろ

赤考　己上四首 並赤考 青方以思文 云々　百四　同九　同七　赤考　古大分西百分

みくまのゝ浦の浜ゆふいくかさね我をは人のこゝろへたつる（とへきこゆる）（青方以 こゝろへ）

こひしきも人にしらせぬみくまのゝ浦の浜ゆふかさねてそ思（右二首拾遺あり）

いかにせんみくまのゝ浜ゆふ重ねて物を思ふらん

みくまのゝ浦の浜ゆふいはすとも我は人のこゝろしるらん（かさねて 宮本 あかね本）

さ紀

さきのよにちきりし浜ゆふ人ゆゑにかけてそおもふ君をもなけれ（心の方）（かけまくも 天方）

（新勅撰雑四 読人不知）こひしくは見にもきませとたのむ浦のうらみてやまん（てには）（ひろひろて宮）（ころも方）（ゆふかの宮）

妹かため玉ひろふとて浜の塩みちくれはなみの浦しすみ（ゆふのかさき 宮）

浜千鳥ゆくへもしらぬ浦にきて浦のあまのつりするなり

いそ

（こよろきの古）あふことのいそのなのりそ沖つしほにみちひる浦にぬれしよつゆけき

家 古雑上
土佐日記
後撰三 躬恒 古六 躬恒集 並 家撰
万十一
家
家 家撰 万七 作者未詳

むかしのあとはいつあまたきれ磯の涙かも奥によるかな
つらゆき
風による浪の磯にハ鶯も春もえしらぬ花のミそさく
みつね
春くれは心ある人にあはゆるの磯の玉藻や今はかりまし

浪

大海にたつらん波ハ今もあらん君によりくハやむ時はなし
つらゆき
打よする浪路は道ハ我恋のつきせぬものとこそすまれ
人まろ
住吉の岸に家もかおきにへによする白浪みつゝ思はん

万十一
土佐日記
貫之集
万七
未考
古恋一
古秋下 文屋康秀 家撰 古六下
後撰四 家 上江己出

あ通ある浦か海によする波のまにまにもしのひこそやれ
手てやらる道ハありけれ吹風と波とはともにたちやらなん
ゆきつきてみるまのみそかゝる浦にあさゆふ人のたつらん
住吉乃岸の松かねうちさらしよせくる波の音のさやけさ
いつかてやむつまし稀をらぬ心をなみのよするなりけり
もとかた
立かへり哀とそ思ふよそにても人に心をおきつしら浪
ふんやのあさやすそ
草も木も色かはれともわたつ海の波の花にそ秋なかりける
いせ
住のえの岸にむかへる浦よりもよする波のかすそまさりける

万十二
住吉の岸にむかへるあはぢしまあはれと君をいはぬ日ぞなき
よみ人しらず

同
みをつくし心つくしておもへかもこのまもとなくゆめにし
ゆめにしのみえて

後恋五
侘ぬれは今はたおなしなにはなるみをつくしてもあはんと
ぞ思ふ

おきかせ

古恋二
君こふる涙の床にみちぬれはみをつくしとそ今はなりける

未考
河浪もうしほにかゝるみをつくしよしかゝるともえぬへらなり

かた

万七
なにはかた潮ひにたちて見渡せはあはぢの島にたつわたるみゆ
たるひのせさく 宮
丹比真人 たちまの命婦イ 非

万九
なにはかた潮ひに出て藻かるあましをとめ子はなのりつけさね

貫之

土佐日記
いつしかといぶせかりつるなにはかたあしこぎ分てみふねきにけり

万十四
たゆひかたしほみちわたるいつゆかもかなしきせろかわかりかよはむ
みなとゆて
家持

万十七
みなと風さむくふくらしなこのえにつまよひかはしたつさはになく

つらゆき

土佐日記
いる月のなかるゝを見れは天河いつるみなとはうみにさりける

そせい 或本伊勢

素性集 古秋下
紅葉ゝのなかれてとまるみなとにはくれなゐふかき浪て立らん

こまち
万云石川大夫名欠
[illegible]

万三
おきつ浪へ浪立ともわかせこかみふねのとまり浪たゝめやも

830
6
181

おほは山霞たなひく風ふけて（さよふけて五）我舟はてんとまりしらすも　黒人

（官本云）（本云）文禄三年七月日　以戸部（京極入道中納言云）御本書写了

（校合云）源朝臣　在判

寛永二年十二月十九日以入道右大臣本書写校合畢
伊本家長朝臣本云々

国立国会図書館　タイトル『古今和歌六帖 6巻』 請求記号 830-181
ガラス使用

830
6
181

国立国会図書館　タイトル『古今和歌六帖 6巻』 請求記号 830-181

ガラス使用

帝國圖書館藏

国立国会図書館　タイトル『古今和歌六帖 6巻』 請求記号 830-181

ガラス使用